

いくとぴあ食花要求水準・目標値(評価指標)

視点	評価項目	令和5年度 評価指標	いくとぴあ食花4施設				令和5年度実績	評価	評価コメント
			食と花の交流センター	食育・花育センター	動物ふれあいセンター	子ども創造センター			
市民	入場者数	いくとぴあ食花4施設の来場者数 :最終年度(R9)までに165万人以上/年 ※令和5年度目標 1,600,000人	○				1,528,337人	C	指標を下回った
	団体利用	食と花の交流センター :最終年度(R9)までに利用団体240団体以上/年 ※令和5年度目標 200団体		○			187団体	C	指標を下回った
		食育・花育センター :最終年度(R9)までに利用団体360団体以上/年 ※令和5年度目標 340団体			○		407団体	A	指標を大きく上回った
		動物ふれあいセンター :最終年度(R9)までに利用団体390団体以上/年 ※令和5年度目標 370団体				○	405団体	A	指標を大きく上回った
		子ども創造センター :最終年度(R9)までに利用団体350団体以上/年 ※令和5年度目標 330団体				○	485団体	A	指標を大きく上回った
	体験と学習	団体体験プログラムの実施:最終年度(R9)までに320回以上/年 ※令和5年度目標 320回/年	○				768回	A	指標を大きく上回った
	交流の拡大	交流イベント :8回以上/年	○				8回	B	指標のとおり
	多彩な事業展開	食・花・子ども・動物分野のコラボ事業の実施 :300回以上/年	○				366回	A	指標を大きく上回った
	食育・花育の推進	・料理教室等の開催 :60回以上/年 (主催・共催・委託を含む) ・食育ミニ体験の開催 :120回以上/年			○		・料理教室:73回 ・食育ミニ体験:150回	A	指標を大きく上回った
		・園芸講座等の開催 :80回以上/年 (アトリウムでの開催を含む) ・花育体験の開催 :48回以上/年			○		・園芸講座:80回 ・花育体験:69回	A	園芸講座は指標のとおりであるが、花育体験が指標を大きく上回ったためAとした
食と花のプロモーション	企画イベント :30回以上/年		○	○		62回	A	指標を大きく上回った	
譲渡事業の推進	・市に收容された犬の譲渡率 :70%以上/年 ・市に收容された猫の譲渡率 :40%以上/年				○	・犬の譲渡率:68.4% ・猫の譲渡率:78.6%	B	犬の譲渡率は指標を下回ったが、猫の譲渡率が指標を大きく上回ったためBとした	
広報の充実	・HPの情報更新 :360回以上/年 ・SNSによる情報発信 :360回以上/年	○				・HPの情報更新:1,473回 ・SNSによる情報発信:1,231回	A	指標を大きく上回った	
利用者の満足度	利用者アンケートで「満足」が85%以上	○				98.1%	A	指標を大きく上回った	
財務	適正な財政運営	収支計画に基づく収入の確保及び費用の執行	○				指定管理収支が赤字	C	指定管理収支が赤字
		利用者ニーズを踏まえた開館日数・開館時間等の設定による効率的な運営	○				11月から2月まで毎週火曜日を休館とした(平時は毎月第2、第4火曜日を休館としている)	B	閑散期での休館日を増やした
	適正な財務管理	財務マニュアルの作成及び収支状況の記録	○				適正に実施	B	指標のとおり
業務	安心・安全の確保	・防災訓練:年2回以上実施 ・防災マニュアル及び安全管理マニュアルの作成	○				・防災訓練:2回実施 ・マニュアル作成済	B	指標のとおり
	コンプライアンスの徹底	職員へのコンプライアンス研修受講 :1回以上/年	○				1回	B	指標のとおり
	市内産業の貢献	・再委託する場合の市内事業者への再委託及び資材等の市内事業者(店舗)等からの調達率 :90%以上	○				90.0%	B	指標のとおり
	市民協働の推進	ボランティアの受入れ :延べ700人/年以上	○				458人	C	指標を下回った
		市内の動物関係団体等との連携事業 :6回以上/年				○	14回	A	指標を大きく上回った
		市内の子ども創作・体験活動に関する個人および団体等との連携事業 :200回以上/年				○	201回	B	指標のとおり
社会貢献	施設内の各種作業についての障がい者の受付 :延べ50人/年以上	○				60人	A	指標を大きく上回った	
人材	労働基準の充足	労働関係法令の遵守	○				適正に実施	B	指標のとおり
	業務の理解度と習得度	職員の業務研修 :1人あたり2回以上/年	○				5.5回	A	指標を大きく上回った
	市内雇用の貢献度	市内住居者の雇用率 :90%以上	○				95.2%	A	指標を大きく上回った

指定管理者記載欄(アピールしたい事項・未達成項目への改善策等)

■ 食と花の交流センター

令和5年5月8日から新型コロナウイルス感染症の位置づけが5類感染症に移行し、当施設での感染予防対策も変更し入口の消毒剤の設置は継続して運営を行った。交流イベントについても計画どおり8回開催することが出来た。団体利用の内訳については、新潟市内、県内の団体が9割以上であったが、前年度は11件だった県外からの団体が今年度は18件となり、少しづつではあるが増加してきた傾向がみられる。施設別としては、ガーデン、マーケット、レストラン全てにおいて前年度の来場者数を下回る月もあり、累計来場者数は609,079人(前年度比+8,400人:98.8%、前々年度比+13,162人:101.9%)となり、前年度を下回る結果となった。来場者が前年度を下回った要因としては、夏の猛暑と、令和6年1月1日に発生した能登半島地震により、新潟市で被害が発生した影響も大きかったと考えられる。

- 今年度の取組みにおける成果としては次の点が挙げられる。
1. ホームページの更新回数は603回(前年度比較+48回)、SNSによる情報発信は504回であった。インスタグラムについては、イベントや講座情報だけでなく、ガーデンの花や出店者のお店等の情報発信を積極的に行った。今後も積極的にSNSを活用し、大勢の方に情報を発信していきたい。
 2. コラボ事業として、いくとびあ食花内での連携事業として54回、その他、食・花・子ども・動物の分野に関連した外部団体とのコラボ事業や、外部講師によるガーデン管理指導等の事業が24回、合計78回実施することができた。
 3. 食と花のプロモーションとして、ガーデニング、植栽管理の実施に加えて、ガーデンで実地講座を7回、外部団体と連携した展示を6回開催することが出来た。

今年度の結果と内容について検証を行うとともに、今後も、いくとびあ食花間の施設のみならず、出店者、外部団体とも連携し、いくとびあ食花に訪れる皆様に喜んでいただけるような取組みに努めていきたい。

■ 食育・花育センター

令和5年5月8日に新型コロナ感染症が5類に移行となり感染症予防対策も変更し、運営を行った。
※調理実習室のみ衛生上の観点からスタッフ及びお客様のマスク着用は継続とした。
入館者数は283,277人で(前年度比:101%、前々年度比:111%)であった。また、休日1日の年間利用者平均は1,255人(前年度比:99%)、平日1日の年間利用者平均は612人(前年度比:109%)であった。団体利用に関しては、407団体、11,633人(前年度比:130%)の利用があり前年度を上回り、要求水準340団体ともに上回った。活動内容として自由見学での利用が延べ200団体で最も多く、次いで団体体験プログラムが延べ176団体であった。

成果として団体利用の増加:コロナ5類移行後の5月、6月、9月、3月と利用団体が増加した。利用者の行動先への選択肢が増えたことも要因かと思われる。
花育ミニ体験の充実:年間を通してコンスタントに開催し、昨年を大きく上回ることができた。
ボランティア活動の増加:大学や専門職大学などの学生との連携やイベントにて学生、一般の方々から興味・関心をもっていたボランティアに参加いただけたことは大きな成果となった。次年度以降もできる限り続けていきたい。連携事業としていくとびあ食花内のコラボが前年32回に対し41回開催することができた。今後も市及び地域・関係団体等の連携を深めて参りたい。

次年度は市とも連携し、食花展示コーナーの修繕・改修を進めよりお客様へ興味を持っていただき団体利用や体験利用に繋げていきたい。

■ 動物ふれあいセンター

【アピールしたい事項】
入館者数、団体利用数共に指標を大きく上回った。また利用者満足度も指標を大きくクリアした。引き続き適切な運営を行い、この水準を維持したい。

【未達成項目への改善策等】
コラボ事業の実施数、HP・SNSによる情報発信の項目が指標を大きく下回った。例えばヤギやヒツジの名前を全館にて公募する等、全館を絡めたコラボ事業を定期的を実施し、数値改善を目指す。また、HP・SNSに関して、譲渡対象犬猫の紹介を行い、譲渡の推進に繋げると同時に、更新回数の指標達成を目指す。

■ こども創造センター

令和5年度は、開館334日(令和4年度344日)であったが、年間利用者数210,432人・一日平均利用者数629人となり、前年度を上回った。前年度に引き続き、新潟市民の身近なお出掛け先としての定着・拡大が進んでいる。また、乳幼児を連れての若い世代、とりわけイクメンパパのさらなる増加が見られ、相変わらず、上中越・佐渡・村上や特別支援学校の修学旅行先としての利用もあった。
平日利用の増加については、「ベビーマッサージ教室」「親子リトミック」「おロリトミック」「ストレスケア教室」「英語音楽あそび」「赤ちゃんと産後ママのためのエクササイズ」「親子でヨガ」等の平日開催サポーター協働型乳幼児向けイベントが増加・定着し、口コミ等で広がっていることが伺える。

- <次年度重点事項>
- 乳幼児を連れての利用者の方が楽しめる事業を、さらに継続・発展させるとともに、長期休業中の園児・小学生や年度末・年度初めの新潟市転入の親子さんのさらなる利用促進に努める。また、先進的な幼児教育や新潟市子ども条例等のさらなる啓発活動を行う。
 - 公共教育施設使用マナーのさらなる啓発を継続し、安心・安全で楽しく遊び・学べる施設の周知を進める。
 - 広くボランティアを募ると共に、ボランティアとの一層の協働等により、年間20万人程度ということも創造センターのキャパシティを超える場合の対応に備える。

所管課による総合評価(所見)

【全体】
新たな指定管理期間の1年目であったが、各施設の設置目的や事業計画書に基づいた適切な管理運営が行われている。開業から10年以上が経過し、施設の老朽化などが進んでいる状況ではあるが、引き続き、4施設の特徴を生かした企画や運営・経営の工夫により、多くの方に満足いただける施設となるよう取り組んでいただきたい。

【食と花の交流センター(評価:食と花の推進課)】
外的要因もあり、来場者数が前年度を下回る結果となったが、施設の情報発信や、施設間や外部団体と連携した事業を数多く実施している点は評価する。引き続き、運営の工夫により多くの方に新潟の食や花のPRを行っていただきたい。

【食育・花育センター(評価:食と花の推進課)】
施設単独目標のほとんどで、指標を大きく上回る結果(A評価)であり、特に食育・花育の推進という施設の設置目的にも合致した取組に力を入れていることを高く評価する。

【動物ふれあいセンター(評価:動物愛護センター)】
動物ふれあいセンターの設置目的に沿った体験事業を積極的に実施し、事業計画書に基づき適切に管理運営されている。譲渡事業推進のため、来場者向けにPR動画を作成して放映した。引き続き、譲渡率向上に繋がる取組を実施していただきたい。今後もいくとびあ食花各施設との連携を強化し、魅力あるイベントを開催し、新規の来場者及びリピーターの確保に繋げていただきたい。

【こども創造センター(評価:こども政策課)】
土・日・祝日の利用者の増加だけでなく、平日の利用者も増加している。旅行者や新潟市転入者の利用が少しずつ戻ってきており、着実な取組みが成果として表れていることを評価する。